

編者 衛直馬門  
**教育唱歌集**

Authentische Ausgabe  
Gesammelte Werke  
Der Welt Musik

**Pädagogische  
Gesänge**

**標準版世界音樂全集** 第一〇  
春秋社版





やさしき聲音、  
ああ、  
我が名呼び  
歌ひてし  
亡き母よ、  
子守歌は  
今もなほのこれる  
我が胸深く、

【68】近江八景

1. 三井寺のかねの音  
すみ渡る夕暮、  
はつ雁も整田に  
降りたてし落ち來ぬ、  
ひとり立てる  
唐崎の老松  
雨か波か  
淋しげにひびくは、
2. 今もなほ身に透む  
栗津野の秋風、  
何方ぞ昔の  
榮平のいしぶみ、  
瀬田の夕日  
とこしへに淋しく、  
比良の茶野  
いつ見ても美し、
3. 月のかげさやかに  
すみ登る石山、  
千代かけて思ふは  
榮のその筆  
やまだ矢走  
みえ渡る名どころ  
さしてかへる  
舟の帆も三つ四つ、

【69】秋 風

1. 小野の小萩の咲きしより  
深山下り來る早小鷹の  
一麗近く一麗遠し  
吹く秋風に送られて、
2. あたり静けき我屋に、  
つづく阿への夕まぐれ、  
尾花は招き萩の葉かたる  
吹く秋風に誘はれて、
3. 結ぶあまぢが露の玉、  
人の何ぞと問はぬ間に  
月かげこぼれ夕づつ消えつ  
吹く秋風にそよがれて、

【70】田舎の夕暮 (吉丸一昌作歌)

1. ゆふげの畑は 暮をこめて  
外山も深山も うすれ行けば  
入日も山邊に 急ぎゆく、  
畑の並木に 風寒く  
逝るや馬子の うたごえも  
寂持れそめたる 夕かな、
2. 夕空たどる 旅がらす  
後や先なる 聲々や  
ふりさけ見れば 山寺の  
塔のいらかの かげ黒く  
ひとり静かに 暮れ獲る  
野路の里わの ゆうべかな、

【71】海國の民

1. 果てしも自波 霞にあけて  
朝日に輝く 光くしき海を、  
ゆげよやゆげよ 海國の民  
大船小船 裝ひなれり  
行けよ行けよ 海國の民、
2. 紅匂へる はた雲なびき  
夕潮満ちくる おもしろき海を、  
行けよや行けよ 海國の民、  
盡きせぬ聲 汝をぞ得てる  
行けよ行けよ 海國の民、
3. 荒ぶる風には 空をもひたす  
波鼓打つ 勇ましき海を、  
行けよや行けよ 海國の民、  
富は満ちたり 彼方の國に、  
行けよ行けよ 海國の民、

【72】船 子

1. やよふな子 こげ船を、  
こげよこげよこげよこげよ、  
やよ 船子、
2. 汐みちて、風なきぬ、  
こげよこげよこげよこげよ、  
やよ、船子、

【73】月

1. みつればかけそめ  
かければみちて、  
空行く月こそ  
おかしきものよ、
2. 梅咲く春べは  
藤にかすみ、  
萩咲く秋にぞ  
閑なく海ゆる、

3. かすむもさかちも  
折りにしあへば、  
みつれどかくれど  
ながめはつぎず、

【74】オ 女

1. かきながせる筆のあやに  
染めし顔世あせず、  
ゆかりの色ことばの花  
たじびもあらじその顔、
2. まきあげたる小籠のひまに  
君の心もしらぬや、  
嵐山の跡遺響の鐘  
目に見るごときその風情、

【75】野外の管樂 (大和田建樹作歌)

1. 日の影 山にかくれて  
暮れ行く 秋の野、  
おもしろや 草間に  
ひびき出でたる 樂の調へ、  
あれこそ 今をさかりと  
聲々歌へる 松風鈴鼓、
2. 嵐は松をばらひて  
更けゆく 秋の夜、  
さやけしや そこここ  
風に閉ゆる 物の音色、  
あれこそ 冬のいそぎの  
くだまく 蟲の音  
續續る 蟲の音、

【76】惜 時

1. 花もみぢ散りぬれど  
春も秋もまた來なむ、  
ゆき雲消えぬれど  
夏も冬もまた來なむ、  
さはさなりさりながら  
人の身にははたいたかに、
2. 水のごと流れつづ、  
いにし年は歸り來ず、  
矢のごとくはしりつづ  
過ぎし年は歸り來ず、  
情しむべき年月や  
つとめはげめ時のまゝ、

【77】名所の松

1. 興津の海 天の橋立春立てば、  
天の浮橋未消えて 雲路あやふく  
松原三里かきなせる 墨繪おぼるに、  
霞のみこそ 立ち渡りけれ、

2. 有渡の海 三條の松原風高み  
富士の神山 ひきはへし 雲の雲長く  
松の樹立かきならす 琴の音高し  
おもひぞ出づる羽衣の面、
3. みちのくの雲の松島おもしるや  
鳥の八十鳥しろがねを ちりばめつつも  
松のうれごと十返りの 花さきつつも  
海原のみぞみどりなりける、

【78】旅 愁 (大童球溪作歌)

1. 更け行く秋の夜  
旅の空の、  
わびしき想ひに  
ひとりなやむ、  
戀しや故郷  
なつかし父母、  
夢路にたどるは  
故郷の家路、  
更け行く秋の夜  
旅の空の、  
わびしき思ひに  
ひとりなやむ、
2. 窓うつ嵐に  
夢もやぶれ、  
はるけき彼方に  
心まよふ、  
戀しやふるさと  
懐し父母  
思ひに浮ぶは  
仕の本ずを、  
窓うつ嵐に  
夢もやぶれ、  
はるけき彼方に  
心はこぶ、

【79】故郷の慶家 (大童球溪作歌)

1. 幾年ふるさと 來て見れば、  
咲く花池く鳥 そよぐ風  
門邊の小川の ささやきも  
なれにし昔に 戀らねど、  
荒れたる我家に 住む人たえてなく、
2. 昔をかたるか そよぐ風、  
昔をうつすか するも水  
朝夕かたみに 手をとりにて  
遊びし友人 今何處、  
淋しき故郷や さびしき我家や、

【80】郊外散步 (山口重樹作歌)

春

Top

Sp  
Find

標準版 世界管樂全集

編纂者	神田龍一
發行者	神田龍一
發行所	春秋社 東京市日本橋區北區編 振替東京二四八六一
發賣所	豐松柏館 東京市日本橋區東區編 振替東京二四七二四

印刷所	三京社 東京市荒川区根上中野四〇〇
-----	----------------------

昭和十一年九月五日印刷 定價圓五拾錢  
 昭和十一年九月十日發行